糖尿病療養指導士活動の活性化をはかるひとつのモデルとして

国家公務員共済組合連合会浜の町病院栄養課 大部 正代

せっかく研修を受けて取得した糖尿病療養指導士の資格をどのように活動すべきか、したらいのか、悩んでいる方が多いと聞く。ひとつのモデルとして、福岡におけるCDEJ 110名を含むLCDE 488名の活動を述べてみる。

糖尿病療養指導士の原点でもある「患者さんから学び、患者さんとともに悩み、同じ視点でともに考え、糖尿病の正しい知識の普及啓発の実践と治療への自立性を支援すること」と、「医療機関で十分に経験を積み、実力と最新の知識を身に付けて1次予防（地域活動）にて糖尿病の啓発にボランティアとして参加すること」を共通認識とし、一般社会には認知されていなかった糖尿病療養指導士の活用を行政に働きかけ、活動の場を確保することから我々の活動が始まった。5年余りを経過した福岡糖尿病療養指導士会の組織作りと活動を紹介します。

1999年から開始された福岡糖尿病療養指導士（LCDE）の合格者が250名を超えた2001年頃から、合格者の間から地域活動の場が少ないとの声が出てきた。確かに11月の糖尿病週間やウォークラリー位の活動だけでは、延べLCDE 100名の手は余ってしまう。

筆者は福岡糖尿病療養指導士会会長を務めており、立場的にもなにかアクションを起こす必要性に駆られ、常に、LCDEの活動にご支援・ご協力いただいていた日本糖尿病協会福岡支部に相談し、一緒に行政の担当窓口へLCDE活躍の場を依頼したのがはじまりである。私たちの説明と依頼は、各区の保健所の担当課長会議に提案され、間もなく各保健所から「秋の健康フェアで活動場所を準備するので詳細な打ち合わせをしたい」との連絡が入った。今では保健所での活動は年中行事として定着している。次第に活動が知れわたるようになると、2007年には、校区行事や公民館からも依頼がくるようになった。

但し、血糖測定の依頼がある場合は医師の同席を原則としている。よって、医師の都合がつかないときは、このような依頼はお断りしている。

日本糖尿病対策推進協議会の設立を受けて、福岡県でも福岡糖尿病対策推進会議（福岡県、福岡県医師会、日本糖尿病学会九州支部、日本糖尿病協会福岡県支部の4団体で構成）が2005年9月に設置され、翌月の10月には「減らそう糖尿病第1回街頭キャンペーン」を福岡市一番の繁華街で3日間実施した。短い準備期間であったが、役割をそれぞれの団体が分担することにより成功裡に終わった。

せっかく取得しても??と思う前に、まず、活動の場をさがすことであろう。そのためには、まわりのCDEJやLCDEの方々となにができそうか考え、動き出すことが大事であると思う。認知されればさらに場が広がる。今後も、福岡糖尿病療養指導士会はCDEJとLCDEと協力体制をとりながら、地域での草の根活動を続けていきたいと考える。